



クーポン券で地元のお店を応援しよう！ がんばる地域応援クーポン券が配布されました

利用期限
R6・10/31

南房総市では、原油価格・物価高騰等により、大きな影響を受けている地域経済の回復と市民生活の応援を図るため、「南房総市がんばる地域応援クーポン券」を配布しました。

市民の皆さん全員に一人あたり5,000円分(500円分×10枚)のクーポン券が世帯ごとに送付されています。利用期限は10月31日です。期限切れにならないよう、お早目にお使いください！

和田地区クーポン券取扱店舗

- ・つ印 くじら家
- ・わだばん
- ・うな陣
- ・ローソン 和田町仁我浦店
- ・安房屋呉服店
- ・道の駅和田浦WA・O! ((株)南美舎)
- ・四季の宿 民宿 じんざ
- ・食事処 わだうら
- ・ベスト電器 和田浦店
- ・(有)かわなストア和田店
- ・笑福
- ・さかな
- ・(有)泉市商店
- ・かねす
- ・栗山精米所
- ・うなぎ新都
- ・(有)かわなストア南三原店
- ・(有)近田屋商店
- ・ブックセンター近田屋
- ・ランチ&スナック ステラ
- ・KUJIKa the Oven
- ・(有)下田自動車
- ・seaside kitchen grow
- ・セブンイレブン安房和田町海発店
- ・サンライズ
- ・(同)くじらのもり
- ・沖見屋
- ・(有)野村自動車整備工場
- ・理容相澤
- ・黒川クリーニング
- ・鉄工房カディワークス
- ・安房医療福祉専門学校
- 南房総校 花カフェ

利用ルール

- ・税込1,000円毎の会計につきクーポン券1枚利用でき、1枚につき500円の割引が可能です。
- ・応援券は小規模店のみ、共通券は小規模店と大型店の両方で利用可能です。



お問合せ先 南房総市 商工観光部商工課 TEL 0470-33-1092

※クーポン券の利用方法、取扱店舗等の詳細は南房総市のHPをご参照ください。



和田地区現地対策本部開設訓練を実施しました

7月26日(金)に和田コミュニティセンターにて、市役所職員を対象とした災害時避難所開設訓練が行われました。発熱者に対する受付時の対応や、避難者の居住スペースの設置訓練として、ダンボールの間仕切りやベッド、発泡スチロールベッド、障害者用臨時トイレなどを実際に組み立てました。またガス発電機、無線機、ミストファン等、機材関係についても試験運転を行い、操作方法を確認しました。

訓練に参加した職員は、「避難所の開設、避難者受入れの為の物品の保管場所の確認、組み立て等の訓練を避難所開設職員と確認出来て良かった。大規模災害発生時は職員が被災し、速やかに避難所開設が出来ない事もある為、次回は地域の方とも同様の訓練が出来ると良いと思った。」と感想を述べていました。



和田浦くじらゼミが開催されました

7月20日(土)・21日(日)の2日間にわたり、和田コミュニティセンター3F市民ホールにてNPO法人ネイチャースクールわくわくWADA主催の「和田浦くじらゼミ」が開催されました。

このくじらゼミは地域の捕鯨文化に理解を深めてもらう事を目的に平成21年から開催されており、毎年鯨や捕鯨に関心を持つ多くの方が集まるセミナーです。

今回は、県内や近県より35人の参加者が集まり、「人間と動物の関係性を考え直す」をテーマとした専門家の講義に熱心に耳を傾けていました。また講義の後は懇親会も催され鯨料理を中心とした郷土料理を食しながら鯨談義に皆さん花を咲かせていました。



サークル紹介

掛け軸教室

今回のサークル紹介は掛け軸教室の皆さんです。

町が主催した掛け軸の公民館講座が3年で終了後、代表である秋山久枝さんを中心とするメンバーで2000年に現在の掛け軸教室を立ち上げました。

今年で24年目、会員は講師の塩澤和枝さんを含め現在6名です。

1つの掛け軸が完成するまでの期間は3カ月～4カ月ほど。本紙に用いるのは、自ら描いた絵、奥様やお孫さんが書いた書道作品、また気に入った柄の手ぬぐいなど自分の好きな物を選び、それを掛け軸のベースとなる台紙に貼っていきます。

作品作りは、なかなか仕上がりに満足する事がなく、奥が深いそうです。そこも魅力の一つになっており、皆さん「楽しくてやめられない」と口を揃えておっしゃっていました。

毎週木曜日の午後1時～5時、和田コミュニティセンター2Fの研修会議室で活動しています。興味のある方は是非、見学にいらして下さい。



塩澤先生は90歳 先生の技術は素晴らしいと生徒さんから評判です



文化祭で作品を展示しています

町であった「ちょっといい話」

和田区在住、岡田春江さんより寄せられた心温まるお話しをご紹介します。

5年前の夏、熱中症によって倒れた岡田さんは、搬送された病院で生死を彷徨う大病を経験されその後も病院通いは欠かせないものとなりました。そんな岡田さん、先日町内の病院に徒歩で向かう際、1台の軽トラックに乗る男性から声を掛けられました。

「どこに行く？乗せて行ってあげるよ」遠慮する岡田さんに男性は「いいからいいから」と手を取ると車に乗せ、病院まで送ってくれました。病院に着くと男性は自動販売機でお茶まで購入し、岡田さんの体調を気遣ってくれました。この心優しき男性とは、仁我浦区在住の木戸幸生さん。

岡田さんは「親子以上に年が離れた方からこんなに優しくしてもらい、とても嬉しかった。この場を借りて改めて感謝したい」とおっしゃっていました。

最近は、コミュニケーション不足や人間関係の希薄化が進んでいると言われますが、ほんの少しの言葉掛けや行動が相手を励ましたり、温かい心になったりするってとても素敵な事ですね。



岡田春江さん